

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 商会 No.3 【割賦販売】

収録日：平成 25 年 12 月 23 日

【出題実績】

日商簿記 1 級過去問 (119 回・123 回)

全経簿記上級過去問 (156 回・168 回)

<サクッと受かる日商簿記 1 級 2 (純資産損益会計編) 改訂四版 P226-264

<スッキリわかる日商簿記 1 級 II (損益会計編) 第 3 版 P106-151、問題編 P19-29

<検定簿記講義 (商業簿記) H25 年版 P14~21

割賦販売	販売基準	
	回収基準・回収期限到来基準	未実現利益整理法 (繰延利益方式)
		対照勘定法

日商簿記では、商業簿記の一部分で出題されるケースが多い

119 回 (25 点中の 2 点分) 123 回 (25 点中の 5 点分)

全経簿記では、利息調整勘定を使用する方法 (下記参照)

156,168 回とも (100 点満点の 10 点分)

まずは、割賦販売の計上の仕方を 3 種類確認しましょう

550,000 円の商品を 10 回払いで販売した。

<販売基準 割賦売掛金 550,000 / 割賦売上高 550,000

<回収基準 割賦販売契約 550,000 / 割賦仮売上 550,000
現金 55,000 / 割賦売上 55,000
割賦仮売上 55,000 / 割賦販売契約 55,000

<回収期限到来基準 割賦販売契約 550,000 / 割賦仮売上 550,000
4/27 売掛金 55,000 / 割賦売上 55,000
割賦仮売上 55,000 / 割賦販売契約 55,000
4/30 現金 55,000 / 売掛金 55,000

利息調整勘定を使用する方法（全経上級特有）

現金価格 500,000 円の商品を 550,000 で 10 回払いで販売。

割賦売掛金 550,000 / 割賦売上高 500,000
/ 利息調整勘定 50,000

現金 55,000 / 割賦売掛金 55,000
利息調整勘定 5,000 / 受取利息 5,000

利息調整勘定は割賦利息未決算を使用する事もあります

営業収益 500,000				
営業外収益 50,000	5,000	5,000	5,000	

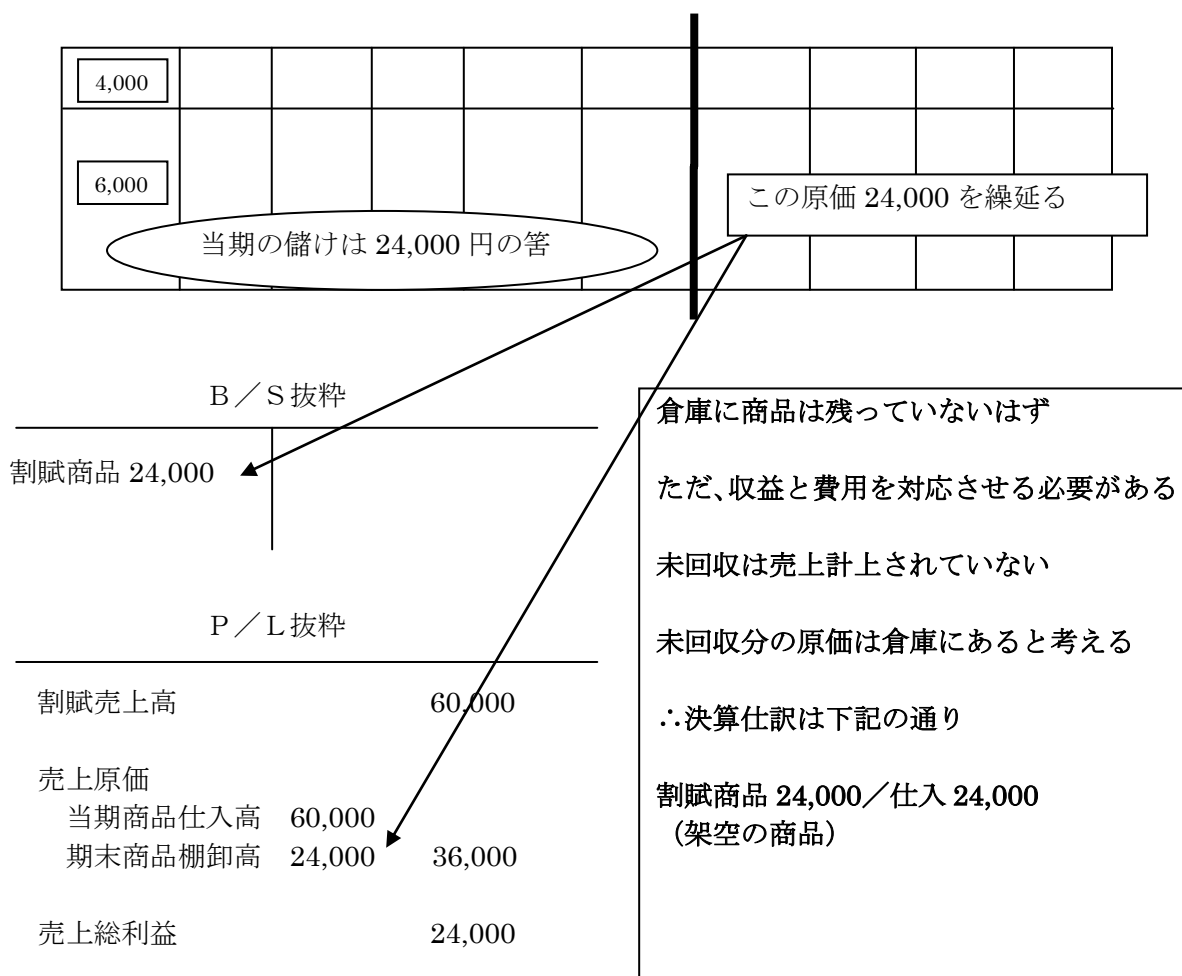
割賦販売（回収基準）の考え方

<対照勘定法>

原価 60,000 円の商品を 100,000 円 10 回払いで販売した。
当期は 6 回収した。

- ①仕入 60,000 / 買掛金 60,000
- ②割賦販売契約 100,000 / 割賦販売上 100,000
- ③現金 60,000 / 割賦売上 60,000
割賦販売上 60,000 / 割賦販売契約 60,000

回収時に売上と考える基準
6 回の回収なら
利益は 24,000 円のはず



割賦販売（回収基準）の考え方

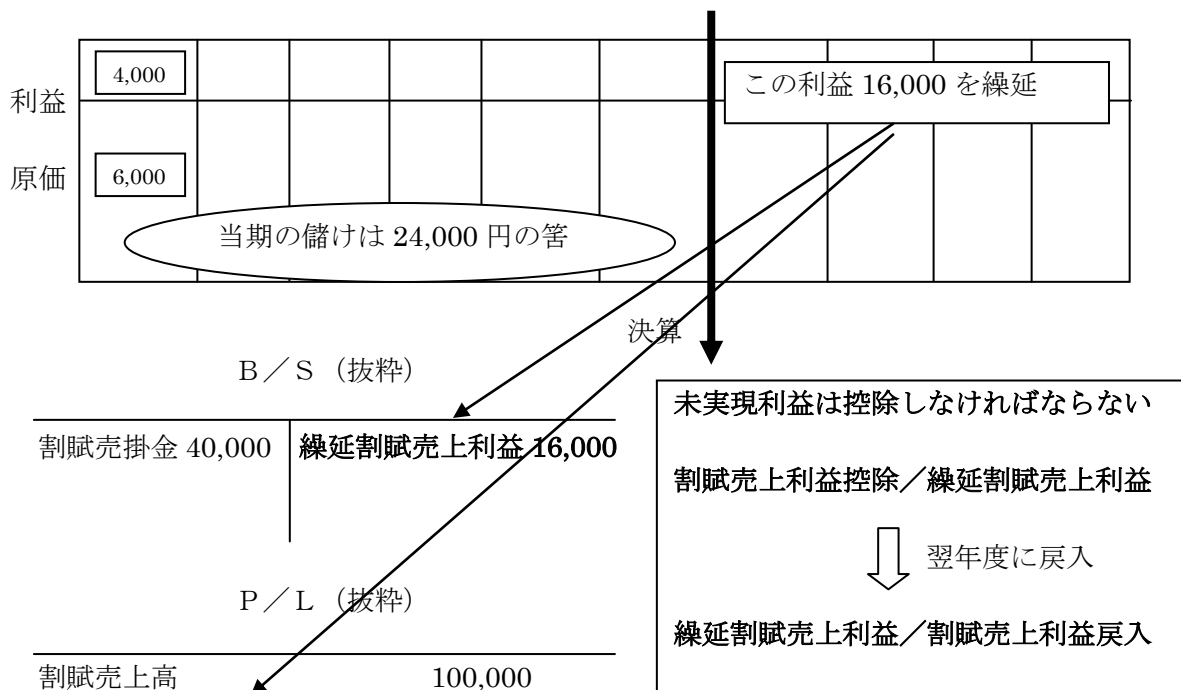
<未実現利益整理法>

原価 60,000 円の商品を 100,000 円 10 回払いで販売した。
当期は 6 回収した

回収時に売上と考える基準
6 回の回収なら
利益は 24,000 円のはず

- ①仕入 60,000 / 買掛金 60,000
- ②割賦売掛金 100,000 / 割賦売上 100,000 (全額売上に計上)
- ③現金 60,000 / 割賦売掛金 60,000

でも回収基準で売上計上する場合は、
4 回分の利益は到来（実現）していないので控除しないとイケません



売上原価		
当期商品仕入高	60,000	60,000
調整前売上総利益		40,000
割賦売上利益控除		16,000
調整後売上総利益		24,000

結果として対照勘定法と同じ 24,000 円の利益となります

<質問>

この商品の利益率は？

割賦売掛金に含まれている利益を計算する方法は？

<回答>

40%

40,000 円 × 40% = 16,000 円

戻り商品の処理

前頁の事例で、翌年度に貸倒れてしまったとします。

この際に、商品の一部（再販できる商品）を引き上げる事があります。

引き上げた商品の評価額は 15,000 円とします。

ちなみに私が最初に勤務した会社は、UFJニコスの前身でオートローンやリースの担当をしていましたので、管理部門の担当者から商品引き上げの話聞いていました。

余談はともかく、ではこの際の会計処理はどうなるのでしょうか？

<対照勘定法から>

40,000 円が貸倒れたわけですね。そのうち原価は 18,000 円になります。

従って

割賦仮売上 40,000 / 割賦販売契約 40,000

戻り商品 15,000 / 割賦商品 24,000

戻り商品損失 9,000

<未実現利益整理法なら>

戻り商品 15,000 / 割賦売掛金 40,000

繰延割賦売上利益 16,000

戻り商品損失 9,000

となります

この時、割賦売掛金に貸倒引当金が 2,000 円設定されていたら

戻り商品損失は 7,000 円となります

<ダウンロード講座はここから>

第 123 回商業簿記 類題

当期中における割賦販売に関するデータは以下のとおりである

②と③については処理済みであるが、④については未処理である。④については貸倒の処理を行う事。割賦販売の収益認識基準としては、回収期限到来基準（未実現利益控除法）を採用している。回収期限到来の割賦売掛金は売掛金に振替える必要はない。

一般販売の原価率は 72% である。割賦販売は一般販売の 20% 増しで販売している

	前期以前引渡し分	当期引渡し分
①期首割賦売掛金残 (うち回収期限到来分)	4,320 (420)	—
②商品引渡し	—	9,600
③割賦売掛金回収分	2,520	4,470
④回収不能額 (取戻し品評価額)	600※ (50)	480 (30)
⑤期末割賦売掛金残高 のうち回収期限到来分	150	540

※期首の 420 円含む

420 円の取扱いが難しい問題です

未実現利益整理法なので、回収期限が到来すれば本来は<売掛金/割賦売掛金>だが、問題の指示により、振替はしていません。

という事は、4,320 円のうち期限が到来していない分が 3,900 円あるという事ですね。

また回収期限が到来していた 420 円分は前期に利益を繰り延べていないので、貸倒時に繰延利益の取り崩しを考慮する必要はありません（回収期限が到来した段階で実現利益と考えるのだから繰り延べてはいません）

次ページに私の書いた BOX があります。確認してみましょう

$4,320$
 $\left\{ \begin{array}{l} 3,900 \\ 420 \end{array} \right.$

④ $2,520 \times 0.4 = 1,008$

⑤ $600 \left\{ \begin{array}{l} 420 \\ 180 \end{array} \right. \times 0.4 = 72$

⑥ $150 \times 0.4 = 60$

⑦ $1,050$

$9,600$

⑧ $4,470$

⑨ 480

⑩ 540

⑪ $4,110 \times 0.4 = 1,644$

⑫ 原価 $1,068$ / 売入 $1,068$

原価 72 / 売入 600

原品 50

損失 478

20	} 48 40%
28	
72	

⑬ 原品 30 / 売入 480

損失 450

原品控除 $1,644$ / 原品 $1,644$